

校長室の窓

第 5 号
2013, 8, 22
長野県蓼科高等学校長
金原 正

*** 二学期が始まります ***

二学期が始まります。それぞれの夏休みはどんなだったでしょうか。二学期のスタートにあたって、一学期の終業式でお話したことを改めて振り返ってみたいと思います。次の3点についてお話ししました（要旨）。

- ①夏休みにもう一度一学期を振り返ってみましょう。自分自身の到達点を確認し、二学期以降の目標を設定しましょう。二学期につながる夏休みにして下さい。
- ②戦争と平和について考えることは命について考えることです。夏はこのことを考えさせられる季節であり、また考えてほしい季節です。戦争は過ぎ去った昔のことではなく、米軍基地・原子力の利用・アジア諸国との関係・憲法等々、「今」につながる問題です。特に、8月6日・9日・15日とその翌日の報道には意識して触れ、考える機会を持って下さい。
- ③マナーを守りましょう。蓼科高校は全校で282名ですが、そのうちの1人がマナーを守れないと、 $282 - 1 = 281$ ではなく、 $282 - 1 = 0$ という評価になってしまいます。そのことを心に銘じて、人としての基本を考えた行動をとりましょう。

これらについては、二学期も引き続いて意識をしてほしいことです。長い二学期ですが、何気なく過ごしていると何もできないままに時間は瞬く間に過ぎてしまいます。将来に向けた「今」を大切に、意識的に毎日を創っていきましょう。

「地域と共に知恵と勇気を育む」蓼科高校 ～地域との連携事業から・夏～



・「立科町がんばる地域応援事業・サンフラワー日向」

本校は、授業の一環としてこの事業に参加しています。昨年11月、「地域Ⅰ」の授業で学校近くの農道沿いの花壇づくりと花の植え付けのお手伝いをさせていただきましたが、今夏きれいに花を咲かせ、フラワーロードになりました。

・「立科えんでこ」に参加しました

役場前中央広場では、軽音楽部が元気いっぱいステージ発表をしました。恒例の蓼高御輿には、生徒会役員と1年生有志・保護者・職員有志の計36名が参加し、大いに盛り上がりました。私も文字通り御輿に担ぎ上げられ、たくさんの汗をかかせていただきました。関係者の皆さん、ありがとうございました。



軽音楽部のステージ



蓼高御輿

・「ありがとう140年 信毎まつりin佐久」

8月11日、佐久創造館で開催されたイベントに「ジャズ☆キャンディー」が出演しました。当日は、本校ジャズ部もモデルになった映画「スウィングガールズ」が上映され、続いて「ジャズ☆キャンディー」の演奏が行われました。約300人の観客からたくさんの声援をいただきました。



・夏休み中、生徒会役員や各部活の諸君はポプラ祭の準備に毎日汗を流していました。この夏も蓼高の生徒諸君は様々な分野でキラリと光っていました。

——— 保科百助先生収集の織物標本について 2 ———



保科百助先生収集の織物標本に関する続編です。前号で紹介した『内外國織物標本』とは別に、『織物標本（七拾種）蓼科乙種農学校』と記された箱に収められたものが残されています。台紙の大きさは前者と同じですが、こちらは台紙1枚にサンプル布地が1枚ずつ貼り付けられています。当初は70種（70枚）あったのですが、



現存するのは完全なもの39枚と布地が欠損した台紙のみのももの7枚の計46枚です。一例をあげると、写真上は「黄八丈織 八丈島ノ土ニテ黄色ニ染メタルモノ 壱反ノ價 六円」、下は「博多ヲリ（織） コブ茶色 筑前国博多名産 博多帯 五円位ヨリ拾円位迄デ」と記されています。「品名・概要説明・価格」が説明のパターンになっています。『内外國織物標本』は300組作成したということですので説明は印刷されたものでしたが、こちらは1枚1枚手書きです。本校が「蓼科実業補修学校」から「蓼科乙種農学校」となるのは1902年（明治35年）6月ですが、先生はその前年に教職を辞しています。従って、何時この標本が作られ本校に贈られたのかは明らかではありませんが、在職中には集落ごとに機業講習会を開催して機業の普及に努めたことや、退職後はもっぱら鉱物収集に力点が置かれたと思われることから、退職から「蓼科乙種農学校」設立の前後の時期に、本校のために作成されたものと考えてよいのではないかと思います。



「実業（農業・商業・工業・水産業など生産・販売に関わる事業）を離れて教育はない」を信条とし、実業教育（実業振興のための教育活動）に力を注ぎ、実物教授に情熱を傾けた先生の実践が残してくれた大きな財産です。時とともに欠損が目立つようになっていますが、鉱物標本とともに、きちんと保存処理をして活用もできる方法を考えていきたいと思っています。

※記述にあたっては、『五無齋と信州教育』平沢信康著 2001 学文社 を参考にしました。

◇『校長室の窓』は本校HPに掲載しています。写真もカラーでご覧になれます。

星糞峠黒曜石原産地遺跡

国史跡

所在地：長和町大字大門字迫分3520-20ほか

ほしくそ
星糞峠の黒い石は最古の
ブランド品だった！



1993年（平成5年）9月12日、読売新聞一面トップで「縄文最大の黒曜石鉱山」「75基 星くずの里たかやま 黒曜石体験ミュージアムの採掘址発見」の見出しで、世界最古かつ最大規模の鉱山遺跡の発見が報道されました。この「縄文鉱山」の発見は、それまでの縄文時代観を塗りかえるものとして注目され、2001年（平成13年）に国の史跡に指定されました。



霧ヶ峰高原の北側に位置する虫倉山の南斜面とそれに続く星糞峠からその麓（ブランチたかやまスキー場とその周辺部）は、黒曜石の原産地として知られています。黒曜石は火山から噴出した溶岩が固まってできた天然のガラスで、割れ口が鋭く加工しやすいことから、旧石器時代から縄文時代にかけての約3万年もの間、石器の材料として利用されてきました。この地には黒曜石の採掘や石器づくり、流通に係わった大きな遺跡がいくつも残されており、全体として「鷹山遺跡群」と呼ばれています。火山の多い日本列島ですが、黒曜石のとれる山は限られており、この地域の黒曜石は東北地方から近畿地方にかけての広い範囲に流通してしていたことがわかっています。



右奥が虫倉山、中央鞍部が星糞峠。手前の建物は
明治大学黒曜石研究センター

旧石器時代の人々は、星糞峠の麓を流れる鷹山川の川底で峠から崩れ落ちてきた黒曜石の原石を拾って沢山の石器を作っていました。縄文時代の人々は、山の地形を変えてしまうほど大規模な採掘を行っていました。2012年（平成24年）の調査ではこの採掘跡で木の構造物が発見され、縄文人



が穴を掘って黒曜石を採取する際、危険防止のために土留めとして使った可能性が高いとされています。黒曜石の採掘は本格的な土木事業だったのです。発掘調査は、明治大学と長和町教育委員会によって継続的に行われており、その成果は遺跡内に隣接する「明治大学黒曜石研究センター」と「星くずの里黒曜石体験ミュージアム」で公開・紹介されています。

← 黒曜石体験ミュージアムで製作された黒曜石のナイフ。肉も切れます。

※きらきら光る黒曜石のはく片を人々はいつの頃からか「星糞」と呼ぶようになりました。「お日さまの鼻くそ」と呼ぶ地方もあるそうです。黒曜石の「曜」の字は、「かがやく」という意味を大事にして鷹山では「耀」を用いています。